

学 校 自 己 評 価 報 告 書

学校教育目標 一人一人を見つめ、自立と社会参加をめざし、たくましい生活力を育てる。						
項目 重点	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目 (具体的な計画)	達成状況	評価	改善方策
自立と社会参加を目指す 「主体的・対話的で深い学び」 の充実	○「主体的・対話的で深い学び」を引き出す指導・支援のあり方の研究	○「主体的・対話的で深い学び」を引き出すために ICT を活用した授業実践。	○授業づくり検討会の実施。 ○各学部で ICT を活用した授業実践に取り組む。	○前年度までの研究を生かし主体的・対話的で深い学びを引き出すための ICT を活用した授業実践に各部で取り組むことができた。	B	○日々の指導・支援の中で、ICT を活用した授業実践を蓄積する。 ○場面等に応じた効果的な ICT 活用の指導・支援方法を検討する。
地域や関係諸機関と連携した 教育活動の充実	○児童生徒と地域との交流、地域との連携を図った教育活動の実施	○地域の学校や地域社会、ボランティアとの交流、 ○交流籍を活用した居住地校交流の推進。	○交流及び共同学習や地域と生徒の協働した活動、地域の施設・機関での販売活動等に取り組む。	○交流籍を活用した居住地校交流は小中学部で約 5 割の実施率。ボランティア登録者約 100 名。 ○地域ボランティアと生徒が協働しての校内清掃や地域での販売活動等を実施した。また、地域ボランティアによる登校見守りを週 3 回実施した。	B	○学校運営協議会と支援地域本部が連携し、さらに地域との連携を深めていく。
特別支援教育に関する指導力・専門性の向上	○人間性・専門性を高め、自信をもって特別支援学校職員の役割を果たす教職員	○「個別的教育支援計画」により、保護者と共通理解を図り、より良い指導・支援を目指す。	○本校主催公開講座・OJT や校内外の研修会への積極的参加による専門性の向上。 ○若手教員の育成	○中堅教員と若手教員とで OJT 研修を継続して行い、若手教員の育成に資することができた。 ○専門家派遣事業等を活用し、具体的な指導助言を受け、日々の実践に活用した。	B	○研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を活用し、実践力を高めていく。
児童生徒・保護者・教職員にとつて安全安心な学校	○人権尊重の教育の徹底 ○同僚性を培う。働き方改革の推進。	○健康な体と思いやりのある心を育てる。 ○業務内容の見直しと心身の健康を確保する。	○自他を大切にする、人間関係形成能力の育成 ○教材研究や授業準備に当てる時間を確保するため、研修の精選と縮小、統合	○人権ポスター作成・Good Behavior カードの活用や自己理解・他者理解に焦点を当てた取組を実施した。 ○働き方改革プロジェクトを発足した。有志の教職員 10 数名が参加し、様々な問題点や解決策を話し合った。	B	○児童生徒の人権に配慮した指導支援と保護者との共通理解に引き続き努める。 ○業務の精選や個人の意識改革に引き続き努める。

4段階評価 (A: 目標を十分に達成 B: ほぼ目標を達成 C: やや不十分 D: 改善を要する)

来年度の重点取組 (学校自己評価を踏まえた今後の方向性)

○3年間の「主体的・対話的で深い学び」の研究を踏まえ、ICTの効果的な活用を検討していく。

○教育支援計画の活用等により、保護者との共通理解を図るとともに、全校行事や学部間を越えた関わりをとおして小中高の連携や教育の一貫性を高める。

○地域との連携を図った教育活動を充実させる中で特別支援教育の専門性を高め、特別支援学校職員としての役割を果たしていく。